

REMINISCENCES

通身手眼

東海大学名誉教授
AMGEN, Medical Advisor

辻 公美

蒲生野

昭和7年、滋賀県蒲生郡日野町で医家を継ぐ第13代目秀伯の長男として生まれる。古くは出雲の大国主命の末裔、出雲宿禰貞尚が日本海、敦賀、琵琶湖横航、近江八幡を経てそこに流入する日野川を溯り、大草原の蒲生野にたどりついたとある。東に鈴鹿山嶺から見る旭日をあおぎこの草原に定着。椎〔常緑喬木の一つで、木材は堅く各種の用材となり、実は食べられる〕を食したとの故事により椎植神社として今も残っている。また湿地には蒲がまの群落があり後に蒲生郡とよばれる。天智天皇の時代、額田王が「茜さす紫野ゆき標野ゆき野守は見ずや君が袖ふる（万葉第一巻・第二十号）」に対して「紫草のほへる妹を憎くあらば人孀ゆゑにあれ恋めやも（第一巻・第二十一号）」を大海人皇子（後の天武天皇）が返歌されたことは、あまりにも有名である。その恋のあそびの草原がこの蒲生野である。さらに天智天皇一行は、行軍の馬に水を与えるのに、その馬鈴をあたりの木木の枝にかけたという“鈴休神社”が今も昔日の面影を残している。この地は内外二重の池に囲まれていたので、内池うちいけ、外池とりのいけの地名・人名を残している。

14代目（小生）は9月12日に生をえた。その日は薬師如来、略して薬師（ひとびとの病気をなおし、災害をふせいでくれる仏或は医師）の誕生日で、辻家の先祖はお薬師さんの化身として大いに喜んだと聞いている。薬とは旧字体の薬の転音が音を表し、なおす意の語原（療）からきている。薬草の意は、①くすり；病をなおすききめがあるもの、医薬・薬石、②他の物に力を及ぼす作用があるもの、火薬、③どく；身体を害するもの、④



第6回 AOH, Asia Oceania Histocompatibility 会議 (1998.10.26~11.3. ニューデリー) Prof. Mehra 会長夫人らと。

いやす；くすりをのんで病をなおすとある。その当時、本人はそんなこととは知るよしもなく、後になって祖母、母、近所の世話ずきな方々から、何回も聞かされたものである。

八日市中学校2年生の時、第2次世界大戦の敗（終）戦を迎えた。戦後の教育改革の影響で、いわゆる旧制八日市中学（現八日市高校）から、旧日野女学校（現日野高等学校）へ強制的に編入させられた。近江鉄道（米原-貴生川の単線電車で、東京の西武鉄道の払いさげといわれていたが）での約1時間の通学から、自転車または徒歩15分の通学に変わり、男女共学となった。

中・高時代、学校の勉強を面白いと思ったことはなかった。特に地理・歴史などの暗記ものには全く閉口した。——八日市中学校時代（戦争中）のことを思い出す。体育の時間は、体育の先生として陸軍将校が来て、軍人勅諭の暗唱と伝令訓練があった。暗唱することには全く気がないから、憶えることにははじめから拒絶した。“貴様、日本軍隊をバカにしとるか、そこに一步前にてて両足をそろえて、目をつぶれ”，“はい”敬礼、いきな

Medical Research Council
NATIONAL INSTITUTE FOR MEDICAL RESEARCH

Mill Hill 3666

London, N.W. 7

5th May, 1965.

Dear Dr. Tsuji,

I was very interested indeed to read your translation of Professor Shinoi's paper. There is no doubt that Professor Shinoi clearly observed the "second set" phenomenon, carried out observations on an adequate scale, and drew the right inferences from them. It would give me great pleasure to refer to his work in any historical publication I might write in future.

Dr. Emil Holman is another who, unknown to me, observed the second set phenomenon in clinical practice as far back as 1921.

To complete your kindness in drawing my attention to this paper, would you please send me the exact reference, including the first and last pages?

Yours sincerely,

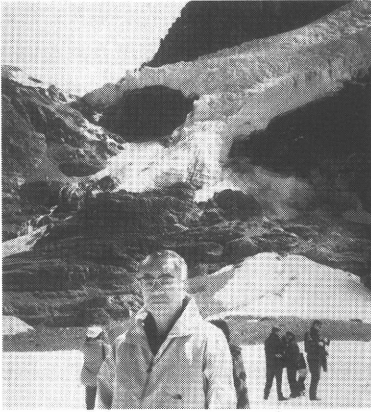


Dr. K. Tsuji,
Department of Surgery,
Duke University Medical Center,
Durham, North Carolina,
U.S.A.

Sir P Medawar の手紙

り往復ピント “ありがとうございます” ……日本軍隊なんかバカにしている。ただ憶える気がなかっただけですと今ならいったであろう。教官にとって、全く興味がないものを憶えろということはどんなものかわかっていない。またこんなこともあった。伝令訓練とは、10人ずつが一組になって、順番に内容を一字一句間違いないか

く伝えるかということである。たとえば “左手ニ白イ手袋ヲハメテ、バケツ満杯ノ水ヲ 30メートル先ノ防空壕マデ零サナイデハコベ”。内容は全く間違っていないが、何回繰返しても必ず小生のところで、その通り伝わっていないことがあった。まず何故左手か、軍手ではいけないか、満杯の水はこぼれるものだ、29.5メートルでもよいではない



第17回国際移植学会（1998.7.12
～17モントリオール）出席後、パ
ンフ国立公園にて

かなどなど考えていると、“白い手袋ヲハメタ左手
デ、満杯ノバケツヲコボサナイデ防空壕ヘハコベ”
またまた往復ピタであった。

医学部で教鞭をとる立場になって、この貴重な
経験は小生自身に大いに役立った。丸暗記でなく
創造性豊かな考える医師と努力したが、当時の陸
軍将校と少しも違っていなかったのであろう。し
たがって受験勉強は全く苦手で大学受験の勉強は
どうすれば良いのか、小生自身はもちろん、両親
も口には出さなかったが、大いに気をもんでいた
ことであろう。

わが歩んだ道

幸いにも日大医学進学コースに入学できた。こ
こではじめて滋賀県日野町を離れ、東京台東区の
叔父宅にお世話になった。ここではじめて学問な
るものに興味をもった。不思議なもので興味が出
てくると、数学・物理・英・独は得意な課目とな
った。しかし本質論として記憶力が良くなったわ
けではなく、興味が記憶を上まわったということ
か。

東京医大を卒業し外科（父が内科医であったと
いうこともあって）の医局に入り、諸先輩からい
ろんなことを教わった。ここでも本質論としては、
そのままに受けるというより、何かをひねってみ
ようと思っていた。中略。故篠井金吾教授、早田
義博先生の了解をえて Duke 大学 Medical Cen-

ter の Prof. WW Shingleton (外科学), Prof. DB
Amos (免疫学)のもと Research Fellow として
2年半 North Carolina, Durham で過ごすことにな
った。

そこで故篠井教授より次のような博士論文の別
冊が送られて来た。「同種植皮ニ關スル研究補遺
(續報), 特ニ皮片ノ免疫学的關係並酸塩基平衡ニ
就テ」, 篠井金吾, 東京医学会雑誌, 第 46 巻第 11
号, 1932 年。移植は免疫によるという論文で, late
Prof. P Medawar が 1944 年に兎の同種皮膚移植
で, 2nd Set Phenomenon を発見したより約 10
年は早かった。残念なことに, 日本語の論文であ
った。さて, 上記論文を英訳し, Prof. DB Amos
にみせたところ, 直ちに Sir P Medawar に送れ
ということになり, その結果 P Medawar から親
切にもいただいた手紙である。

良き偉大な先輩, DB Amos, K Shinoi, P Med-
awar との出会いが, 私を移植学に導き, さらに
Histocompatibility, HLA の世界に入った。日本
の腎移植 (慶大・東電病院・中村宏博士の症例)
で HLA typing を行ったが, これはわが国の臓器
移植の HLA typing の最初である。

退官後に思う

東海大学医学部に約 25 年お世話になり 1998 年
3月31日退官した。退官してみると大学生活はや
はり懐かしい。退官後は縁あって Amgen Inc. で
medical advisor として勤めている。

わずかな紙面で簡単に Amgen KK の紹介をし
てみよう。外国特に米英豪のほとんどの医薬業界
の関係ではよく知られている。最近になって
PhRMA ELECTS GORDON M BINDER AS
CHAIRMAN OF THE BOARD (PhRMA;
Pharmaceutical Research and Manufacturers
of America, GM Binder は Amgen Chairman
and Chief Executive Officer である) のニュース
が世界に流れた。日本では吉田文紀社長をトップ
に, バイオ医薬品業界最大手の AMGEN 社が 100
% 出資し設立された日本法人である。細胞生物学
および分子生物学などの先端技術を駆使し, 有用
性と経済性にすぐれたバイオ医薬品の研究開発に

とりくんでいる。特に genomic pharmacology に主眼をおき, SCF, Infragen, GDNF, KGF, Leptin などなど unmet medical needs へのチャレンジ会社である。Amgen Value というのがある; Be science based, work in teams, compete intensely and win, create value for patients, staff and stock holders, trust and respect each other, collaborate communicate and build consensus, ensure quality, be ethical. これらは奥深い意味があり医学関係者も心すべき点が多い。

医学部医者のある方については、紀元前のヒポクラテスの誓にはじまり、いろんなことが試行錯誤され今日に至っている。外国では医学生、レジ

デントなどの他大学との交流が頻繁に行われているが、わが国ではなかなか実現されない。今回ようやく黒川清・東海大学医学部長の英断で、神奈川県内の数大学の相互交流がはじまるらしい。大いに結構なことで、当事者たちは外の世界をみることが大切である。製薬業界にも新しい風が吹きはじめているらしい。厚生省も含め行政全体に新しい改変をのぞむ今日である。最近特に医から薬に入って、医薬、薬医の領域の交流対話、場合によっては医学生・薬学生の相互交流の必要を感じている。医者よもっと外の領域へ出ると。

大学を去って約1年、退官講義で述べた医は哲学也を進め、科学・哲学・心を思う今日である。